

東邦大学医療センター大森病院臨床研修プログラム

大森・選択専攻科目

臨床検査部（4週以上）

1 研修プログラムの目的と特徴

臨床検査はEvidence Based Medicineにおける客観的な指標として、診療にかかせない存在である。しかし、臨床検査の種類は4,000以上とも言われており、それらを適切に利用することは医師にとって容易ではない。また、包括的医療が推進される現状において、無駄のない効率的な医療を行うためにも臨床検査の適性使用は非常に重要である。本プログラムでは、①臨床検査の臨床的意義および適正使用を学んで自ら検体検査を実施し、検査結果の解釈・報告ができることを目標とする。②臨床医学に横断的に関わる臨床検査医学を学ぶことで、将来の専門領域の基盤を確立することを目標とする。

2 プログラム管理運営体制

プログラムの管理運営は東邦大学病院卒後臨床研修センターが行う。初期臨床研修2年目で臨床検査に関する研修を選択科目として希望するものを対象として研修を行う。研修医が将来専門としたい診療科を考慮してプログラム内容を検討する。

3 教育プログラム

3-1 研修期間と研修医配置予定

研修期間 4週以上
東邦大学医療センター大森病院臨床検査部に配置される。臨床研修指導医および担当技師の下で必要な検査を自ら実施し結果を判定する。

3-2 一般目標（GIO）

病態診断における臨床検査の役割を理解し、病態に応じた検査項目を選択・実施して、その結果を正しく判断する診療が実践できる。

3-3-1 行動目標（SBOs）

チーム医療：他科医師およびメディカルスタッフと円滑なコミュニケーションを持つことができる。
問題対応能力・診療計画：病態に即した検査を適切に選択・実施できる。
安全管理：患者および医療スタッフにとって安全な検査実施方法について理解する。
症例提示：症例の病態・検査結果について適切に説明できる。
医療の社会性：保険制度など医療の社会的側面における臨床検査の位置づけを理解する。

3-3-2-A 経験すべき診察法・検査・手技

- 1：一般尿検査（尿沈渣顕微鏡検査を含む）
- 2：便検査（潜血、虫卵）
- 3：血算・白血球分画
- 4：血液型判定・交差適合試験
- 5：動脈血ガス分析
- 6：血液生化学検査
 - ・簡易検査（血糖、電解質、尿素窒素など）
- 7：血液免疫血清学的検査（免疫細胞検査、アレルギー検査を含む。）
- 8：細菌学的検査・薬剤感受性検査
 - ・検体の採取（痰、尿、血液など）
 - ・簡単な細菌学的検査（グラム染色など）
- 9：髄液検査

3-3-2-B 経験すべき症状、病態、疾患

- 1：偽陰性、擬陽性
- 2：異常高値、異常低値
- 3：パニック値

・臨床研修ガイドラインにおいて挙げられた、「経験すべき症候（29症候）」および「経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）」についても各研修分野で該当するものを外来診療または受け持ち入院患者（合併症含む）で自ら経験する。「経験すべき症候（29症候）」および「経験すべき疾病・病態（26疾病・病態）」の詳細については別紙参照のこと。

・上記症候、疾病・病態を経験したことの確認については各研修分野の臨床研修指導医による病歴要約の確認、および卒後臨床研修/生涯教育センターにおいて全研修医の病歴要約の確認をもって行う。

3-3-2-C 特定医療現場の経験

- 1：採血室において、標準採血法ガイドラインに基づいた採血法を修得する。
- 2：輸血部において血液型判定と交差適合試験を修得する。

3-4-1 学習方略（LS）

臨床検査業務

- 1) 臨床検査部で日常の流れを検査部スタッフから学び自ら検体検査を実施する。
- 2) 末梢血、骨髓標本を自ら観察し、指導者のもと報告書を作成する。
- 3) 微生物感染症の検査・診断法について研修し、指導者のもと報告書を作成する。
- 4) 輸血部において血液型判定と交差適合試験を自ら実施し、指導者のもと報告書を作成する。
- 5) 外来採血室で採血業務を経験する。

カンファレンス・勉強会等

- 1) 臨床検査部勉強会：毎月第4木曜日
新規導入検査項目の紹介、進行中の研究報告など。
- 2) 骨髄像カンファレンス：毎週火曜日
骨髄像の結果判読を行う。
- 3) RCPC：隔週金曜日
年齢・性別・検査情報のみを利用した病態読会を行う。

研修は医師のみでなく、専門的資格あるいは知識技術を持つ臨床検査技師も参加して、臨床検査部全体で指導を行う。

3-4-2 週間スケジュール

時間	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	検査部での研修	検査部での研修	検査部での研修	検査部での研修	検査部での研修	検査部での研修
午後	検査部での研修	検査部での研修 骨髄像カンファレンス	検査部での研修	検査部での研修 検査部勉強会	検査部での研修 RCPC	
	研修は検体検査を2週間、輸血検査・採血業務、微生物検査をそれぞれ1週間実施する。					

3-5 評価（E V）

プログラムの終了時に、GIO と SBOs について自己評価を行う。

指導責任者は研修医とともに業務を行った臨床研修指導医ならびに臨床検査技師と十分に情報を共有し評価を行い、指導責任者が総合的に判断し、臨床検査部研修の最終評価とする。

3-6-1 指導体制

本プログラムの指導責任は東邦大学医療センター大森病院臨床検査部の指導責任者にある。

研修医は臨床検査部の一員として、臨床研修指導医および専門的資格と技能を持った臨床検査技師から指導を受ける。

3-6-2 臨床研修指導医

添付資料『臨床研修指導医』該当診療科の臨床研修指導医、及び指導医責任者を参照のこと。

3-6-3 協力施設

詳細は臨床研修病院群〔プログラム冊子添付資料〕参照